

戦場ヶ原周辺の動植物と自然環境

【植物】



<ホザキシモツケ>
北海道や本州中北部の限られた地域に局所的に分布。



<ノアザミ>
戦場ヶ原に隣接する小田代原では群生する年もある。

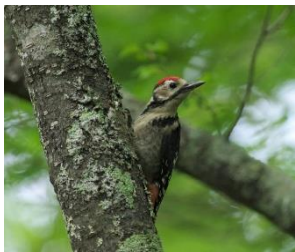


<ハクサンフウロ>
名前の由来は「白山」。夏の花もきれいだが、初秋には葉が紅葉し、草紅葉に彩りを与える。



<ツルコケモモ>
湿原の中でも、高層湿原に生育する。クランベリー的一种。

【野鳥】



<アカゲラ>
日光で観察できる4種類のキツキの一種。一年中生息する留鳥。



<キビタキ>
夏鳥。春から夏の間、繁殖のため南方から飛来する渡り鳥。

【1.樹木、植物の特徴】

奥日光は日本海気候と太平洋気候の境目に位置する。

また、場所により標高が異なり、「中禅寺湖エリア」、「戦場ヶ原エリア」、「湯元エリア」に分かれる。

日本海気候に近く高標高の湯元付近は雪が多く、戦場ヶ原、中禅寺湖に標高が下がるにつれて積雪量も減少する。このような理由から場所により植物や樹木の種類が異なる。

男体山や白根山等、2000m級の山まで含めると、植物の種類は更に多様になる。

【2.野鳥の特徴】

日本全国で観察できる野鳥は約600種類。

日光では、古い記録も含めると約160種類の野鳥を見ることができる。

【3.総括】

沖縄や北海道などのように、その地域でしか見られない動植物はない。

しかし、日本の中の位置や標高、多様な自然環境が密接している。

そのため、短距離で様々な自然を楽しむことができるのが特徴。

~~~~~奥日光の自然~~~~~

【奥日光三滝】 華厳の滝・竜頭の滝・湯滝

【湿原】 戦場ヶ原・小田代ヶ原 ※ 日光国立公園特別保護地区・ラムサール条約

【中禅寺湖】 一周約25km、標高1269mの日本一高い湖。  
約2万年前からの男体山の火山活動により形成された堰止湖。

【その他の湖】 西ノ湖・湯ノ湖・刈込湖・切込湖

【山】 男体山・女峰山・太郎山・大真名子山・小真名子山

作成:2024年7月 奥日光ゲストハウス JUN 合同会社